



**笠間稲荷へ移動学習**  
 令和7年11月5日。移動学習としては2年ぶりに笠間稲荷へと向かいました。秋の風物詩、菊まつりが開催中でたくさんの方で賑わっています。門を通り抜けると頭上には色とりどりの和傘が飾られ、迎えてくれます。境内には見事に咲き誇った鉢植えの菊と菊人形が所狭しと並べられ、訪れた人々を魅了しています。お食事処“さんてす”さんでお昼をいただき、笠間道の駅にも寄り、最後はひたちなか市の黒澤醤油店を見学していろいろな種類の正油をおみやげに買いました。天気にも恵まれ楽しい一日でした。

**いいきき波野サロン**  
 令和7年12月9日、北宮津台・東宮津台区のおおむね65歳以上の方を対象に「いいきき波野サロン」が波野公民館で開催されました。約30名の参加者は、肩こり予防の簡単なシルバーリハビリ体操で身体をほぐし、鹿嶋二胡の音同好会の皆さんによる“冬”の季節らしい演奏やピンゴゲームなどで楽しみました。帰りにはお持ち帰り用の軽食も準備され、短いひとときでしたが皆さん笑顔で「また来ますね」と口々にあいさつを交わしながらお開きとなりました。



**波野小学校持久走大会 誘導ボランティアに参加して**  
 11月11日、波野小学校から地域交流の一環として“なみばとスタッフ”に、持久走大会の誘導のお手伝いとして声がかかりました。ト伝の郷運動公園のグラウンドを学年別に周回する際に、コースを外さないよう目印としてコーナーコーナーに立ち誘導するもの。苦しそうに精一杯の走りを見せる児童たちに、「がんばれ、がんばれ！もうすぐだぞ」とこちらから駆け出さんばかりになって声援を送りながら、波野っ子たちの“がんばり”を見守りました。

編集後記

春は卒業式や職場の異動など、何かと慌ただしい時期です。波野地区のみなさまはいかがお過ごしでしょうか。昨年4月に波野公民館に配属となり、1年となります。あっという間の1年間でした。しかし、年度が変わればお別れする方もいます。また違った場面と一緒にいる時を心待ちにして。また逢う日まで。(真中)

「なみのだより+プラス」は、「なみのだより」と「いいきき波野だより」の合体号です

ふれあいのみちしるべ

**なみのだより** **+プラス**

なみのまもるくん

2026年(令和8年) **3/1**

なみのだより 213号  
 いいきき波野だより 36号



今日は家族で参加しました。ドッチビーは簡単にできて、とても楽しかったです。  
 高橋廉くん(12歳・神向寺地区)



1月25日(日)地区対抗ドッチビー大会を初めて開催しました。”ドッチビー”は、ドッチボールのボールをフリスビーに替えて相手に当てる競技です。各地区を代表した選手の中には子供たちの姿もあり、大人に負けずハッスル！。初めての競技でしたが、すぐに慣れてカいっぱい投げるフリスビーから逃げたり受けたりする姿に歓声が沸くなど、白熱した試合が繰り広げられていました。

👑 1位 神向寺・神平 2位 清水B 3位 小宮作 4位 清水A

# 波野地区まちづくり委員会☆活動報告☆

令和7年11月16日（日）波野小学校と共催で第23回波野まつりが開催されました。当日は天気にも恵まれ、たくさんの方で賑わいました。

今年は波野小学校での学習発表会、卜伝の郷運動公園で小学生宝さがしゲームを開催するなど、共催を生かしたイベントで盛り上がりました。また、鹿島中学校ボランティアの皆さんには射的やヨーヨー釣りなど「子ども広場」を運営してもらいました。



# 波野地区まちづくり委員会☆活動報告☆

## 波野まつりを振り返って 鹿島中学校 大川紗綾

私は、三年間波野まつりボランティアに参加しました。その三年間でとても印象的に残っていることがあります。それは、地域の人と沢山関わったことです。私がボランティアをしている中で、地域の人達が様々な話をしてくれたり、小学生の子どもたちと仲良くなったりすることができました。私は人と関わるのが好きなのでとても嬉しかったことを覚えています。

今年で卒業してしまいましたが、これからもボランティアに積極的に参加したいです。



## 波野まつりを振り返って 鹿島中学校 新橋 友里愛

私は、波野まつりボランティアに初めて参加してみて、学んだことがあります。

当日は、輪投げの担当をさせていただき、児童やお年寄りの方々など幅広い年代に対応しました。コミュニケーションをとるのは大変でしたが、だんだん慣れてきて、お客さんが喜んでのを見ると、私も笑顔になれてとても嬉しかったです。今回のボランティアでは、たくさんの方が支えあって活動していることに気付くことができ、本当に良かったです。



## 今年度事業を振り返って 波野小学校 校長 樋口 洋美

今年も波野まつりを公民館との共催で行うことができたことに、改めて感謝申し上げます。学習発表会では、地域の方々から温かな拍手をいただき、子供たちも達成感や充実感を味わうことができました。また、宝さがしやスポーツチャレンジなども、子供たちにとって貴重な経験となりました。波野まつりが子供たちにとって、ますます貴重な学びの場となるよう、今後も取り組んでまいりたいと思います。



### 11月29日 行政との意見交換会

11月29日に「市民参加型の地域福祉活動の仕組みについて」をテーマに意見交換会を開催しました。単身高齢世帯の増加や地域住民による支え合い活動について、鹿嶋市・鹿嶋市社会福祉協議会の職員の方をお招きし、活発な意見交換を行いました。波野地区まちづくり委員会としても、地域の活動拠点として、みなさまの意見を今後の事業に生かしていきます。



### 12月2日 シニア学級移動学習

12月2日。JR銚子駅の中にある銚子電鉄のホームは平日のお昼とはいえ、そこそこの乗客が出発はいまかと待っています。カメラを抱えた乗り鉄君や1人旅のような若い女性もいます。波野公民館から市バスで1時間程で着くのに参加した人のほとんどが初めての乗車体験でした。住宅の軒先をかすめ町工場の駐車場を見ながら進む車窓はまるで江ノ電のようです。キャベツ畑を過ぎると犬吠駅までは約15分の乗車でした。飯沼観音、満願寺とめぐり、海鮮料理で昼食をとり満足の日でした。



### 12月19日 波野幼稚園との交流会

園児たちが作ったペットボトルのボーリング・かるた・すごろくをして遊びました。どの遊びも、終始笑顔と歓声にあふれた交流となりました。活動終了後には「肩たたき」のプレゼントと元気いっぱい歌の披露があり、参加者一同心温まるひと時を過ごすことが出来ました。世代交代の大切さを改めて感じると共に、園児たちの明るさや素直さに多くの元気をもらう機会となりました。



### 12月21日 しめ縄リースづくり教室

どきどきセンターの石橋美和子センター長、原久雄さんの指導のもと、慣れない藁細工に苦戦しながら互いに教え合いながら作業を進め、リースの土台・稲穂・造花・水引・シデ等を自由に飾り付け、それぞれの感性を生かしたオリジナルのしめ縄リースを作り上げました。

同じ材料を使用しながらも、1つとして同じものは無く、個性豊かな作品に完成し「良い年が迎えられそう」と力作にご満悦！



### 12月23日・1月20日 お茶こ

1年ぶりに体力測定を実施しました。「開眼片足立ち」「タイムアップ＆ゴー」「イス座り立ち」「握力」の4種目。参加者は自身の体力の現状を確認する良い機会となりました。測定後に、フレイル予防についての説明と、日常生活の中で無理なく体を動かすことの大切さや、低栄養を防ぐために「タンパク質を意識して摂取する」ことの重要性について、介護長寿課の大川さんが話をしてくれました。

ひよどり保育園から18名の園児が来館し交流会を実施しました。「手話」をしながら「ビリーブ」を歌ってくれ、その姿に感極まるお茶こメンバーもいて、和やかな雰囲気に包まれました。今回の交流を通して、子ども達の元気をもらえる機会となり、園児にとっても高齢者と触れ合う貴重な体験となったことと思います。

今後も地域での世代交流を大切にしたいと考えています。



### 2月4日 ハッピーライフクラブ「ピザづくりといちご祭り」

今回のハッピーライフは、石岡市の朝日里山小学校でピザを生地から作り、順に焼いてもらい、アツアツを頂き満足しました。続いて隣接するいちご農園のビニールハウスの中で、熟した大きないちごの甘さに驚き、「次は家族で来たい」の声も出ました。

帰りに空の駅”そらら”に寄り、穏やかな1日が終わりました。



### チャレンジ健康づくり教室を開催！

11月から2月にかけて、「チャレンジ健康づくり教室」を開催しました。波野地区の神社や仏閣、伝説の地などを巡る「波野の宝コース」約8kmウォーキング、波野小学校体育館を利用した卓球・ビンゴボードゲーム体験、梅の花咲く魅惑の水戸千波湖・偕楽園ウォーキングを行いました。それぞれの日も天気がよく、みなさんのびのびと楽しんでいました。



▲11月 第3回目  
好天に恵まれ、住吉神社や高天原の鬼塚、阿波神社、神向寺など”波野の宝”を巡り、秋の鹿嶋路を満喫していました。



▲2月 第5回目  
水戸の千波湖・偕楽園をウォーキング。梅はまだつぼみでしたが、春の陽気で体を動かすには快適な1日でした。



「この服、もう学校には着ていかない。」  
 「何かあったの。」  
 「たずねた。私は、学校でのことを話した。すると母は、アハハと笑い、  
 「面白いこと言うね。でもさ、店員じゃなくてよかったね。店長ってなかなかないよ。だってお  
 店が一番えらい人なんだから。」  
 と言った。私は、もつと心配してくるのかと思っていたから、想像もしていなかった母の言葉に  
 びっくりしつ、そういう考え方もあるのかと気づかされた。それからしばらくして、卒業アルバム  
 の写真をとる日になった。学校の支度をしながら、どの服を着ていこうかと、自分のクローゼットを  
 のぞくと、あのストライプのシャツが出てきた。私はアルバムには、好きな服で写りたいと思ってい  
 た。この服は気に入っていたのだが、また笑われてしまうのではないかと不安だった。なかなか服が  
 決まらず、母に  
 「どんな服を着ればいいかな。」  
 と相談すると、  
 「お気に入りの服を着ればいいんじゃない。」  
 と言われた。母の言葉を聞いて、私は、他の人にどう言われようと、この服にしようかと心に決めた。  
 アルバムの写真をとる時間になると、ストライプの服の女子が私を含め、四人いることに気づいた。  
 四人の中には店長という発言をした友達や面白がっていた友達もいた。ひとりごと  
 「みんなコンビニの服みたいだから、記念に写真をとってもらおうよ。」と提案し、みんなも  
 「いいね。」  
 と賛成した。さつえいしながら、私はとても楽しくなり、ああ、この服にして良かったと思った。私  
 を複雑な気持ちにさせていた服が、今は大切な思い出のアイテムとなった。  
 友達にいじられても、あまり気にせず、笑って流せる人もいるが、とてもぎずつき、不登校になっ  
 てしまう人もいる。何気なく言ったささいな言葉も受け止め方によっては、ぎずつけてしまうことが  
 ある。もしかしたら、私の発言で、苦しい思いをした人がいたかもしれない。  
 私は、相手の気持ちになって、言葉を選ぶのは難しいと改めて感じた。しかし、一人ひとりが思い  
 やりを持って、言葉に気を付けることで、毎日を気持ちよく過ごせると思う。

【福祉作文 最優秀（小学生の部）】

## 言葉選びは思いやり

波野小学校六年 内野琴葉



私が考える思いやりの一つは、相手の気持ちに寄りそい、言葉選びに気を付けることだ。  
 ある日私は、母に買ってもらったお気に入りのシャツを着て、登校した。すると友達に「店長みた  
 い」と言われた。近くで話を聞いていたクラスメイトも「たしかに似ている」と面白そうに笑ってい  
 た。青と白のストライプのデザインが、あるコンビニの制服に似ていたのだ。私は、いじられるのが  
 苦手であまり言葉を返すことができない。いつも苦笑いをうかべてしまう。しかも買ってもらったば  
 かりのこの服で笑われるとは思っていなかった。少し悲しい気持ちになった。帰宅してから、母  
 に

## 波野地区社会福祉協議会が受賞

令和8年1月20日に開催された茨城県社会福祉大会で、波野地区社会福祉協議会（通称「いきいき波野」）が地域での身近な福祉活動がたたえられて茨城県知事から表彰されました。いきいき波野では、各地区での「いきいき波野サロン」の開催や波野小学校低学年児童の「波パト」の実施など、地域の皆さんの参画によって身近なふれあいを第一に活動しています。今回の表彰を一層の励みにして行きたいと思ひます。地域の皆様の一層のご理解とご支援、ご参画をお願いします。



## 令和7年度鹿嶋市児童生徒福祉作文 波野小学校から最優秀賞2名

毎年行われている鹿嶋市社会福祉協議会が募集する児童生徒福祉作文に今年度は波野小学校から4年生の浅野龍馬さんと6年生の内野琴葉さんが最優秀賞に選出されました。波野っ子がいろいろな経験やきっかけを通して「福祉」ということを感じ取っているのが非常にわかりやすく表現されています。私たち大人たちも、あちこちに転がっているほほえましい出来事を感じ取って、大切にしていきたいものです。

【福祉作文 最優秀（小学生の部）】

## ぼくのできるやさしさ

波野小学校四年 浅野龍馬



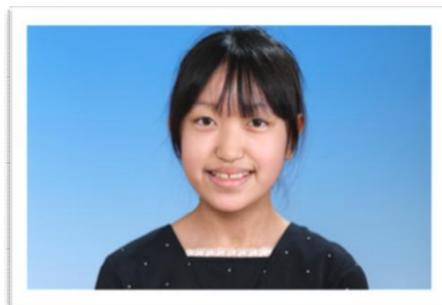
ぼくは、はじめて福祉という言葉を見た時、「むずかしい言葉だな」と思いました。しかし、総合の授業や家の人の話を聞くうちに、福祉は特別なことではなく、ぼく達の身近にあるということを知りました。

ぼくのおばあちゃんは、目が不自由です。しかし、おばあちゃんは、料理も洗たくも仕事も、自分でやっています。ぼくは、小さいころからおばあちゃんが当たり前のようにやっていた姿を見てきたので、それに対して特になにか思うことはありませんでした。でもおばあちゃんにもできないことはあります。例えば、手紙が届いたらだれからの手紙なのか、いつもぼくが見て教えてあげます。何かにぶつかりそうになったら、「そこには物があるよ」と、ぶつかる前に教えてあげます。すると、おばあちゃんはいつも「ありがとう」といつてくれます。当たり前のことをしているだけだけど、やっぱり「ありがとう」と言われると、ぼくもうれしい気持ちになります。

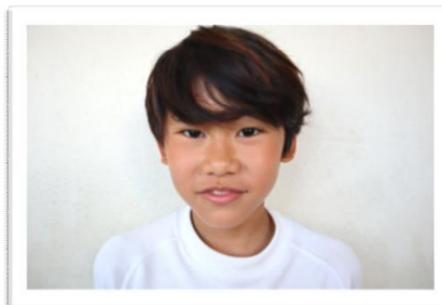
学校でも、配られたプリントの数が足りないと気付いたら、先生の所に行って足りない分をもらいに  
 行ったり、困っている人がいたら声をかけたり、先生に相談したりしています。ぼくが気付いてできるこ  
 とがあったら、すぐに行動するようにしています。なぜかというと、ぼくは友達がいすきだからです。  
 みんなと仲良くしたいという気持ちが、ぼくの心を動かします。

福祉作文を書く決めてから、色々なことを考えました。考えているうちに、福祉は、特別なことでは  
 なく、「ちょっとしたやさしさ」の積み重ねなんだということに気が付きました。ぼくが、家族、友達に  
 やってる当たり前を、知らないだれかにもやってあげられる機会があったら、その時が、ぼくが福祉に関  
 わることが出来る第一歩だと思います。

ぼくは、子どもだから、大きな施設を作ったり、鹿嶋の町を変えたりすることはできません。でも、  
 「気付くこと」と「行動すること」なら今からでもできます。周りをよく見て、困っている人がいたら、  
 勇気をだして助けてあげる。ぼくがぼくの身近な人にやってみる「当たり前」をどんな相手にも当たり前  
 できる大人になりたいと思います。それがぼくにできる福祉だと思います。ぼくは、自分が住んでいる鹿  
 嶋市が、やさしい人であふれるような町にしたい。そのためにまずは自分が、人の気持ちをあたたかくで  
 きる行動を続けていきたいです。



内野琴葉さん



浅野龍馬くん